

享保の改革と社会の変化

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

享保の改革のころ、幕府の政治や人々のくらしはどのように変わっただろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 享保の改革

吉宗の政治

とくがよしむね
徳川吉宗

8代将軍。享保の改革を行った。

くじかたおさだめがき
公事方御定書

裁判や刑罰の基準を定めた法令。「くじがた」とも読む。

めやすばこ
目安箱

民衆の意見を投書させるために置いた箱。

18世紀の初め、幕府の財政は苦しくなっていた。8代将軍の**徳川吉宗**は**享保の改革**を始め、武士に質素・倹約をすすめた。大名には、参勤交代で江戸にいる期間を半年に縮めるかわりに、1万石につき100石の米を納めさせた。これを**上げ米**という。また、新田開発を進めて年貢をふやそうとした。

吉宗は、裁判や刑罰の基準を定めた**公事方御定書**をつくり、裁判を公正に行おうとした。また、江戸に**目安箱**を置いて民衆の意見を聞き、投書をもとに、貧しい病人のための小石川養生所を設けた。こうした改革で幕府の財政は一時立ち直ったが、年貢の取り立ては厳しくなり、百姓の負担は重くなった。

2 変わる農村と一揆

社会の変化

とくやせいかないこうぎょう
問屋制家内工業

問屋が原料や道具を貸し、製品を買い取る。「とんや」とも読む。

こうじょうせいしゅうこうぎょう
工場制手工業

工場(作業場)に人を集め、分業で製品をつくるしくみ。

ひゃくしょういっき
百姓一揆

百姓が団結して、年貢を軽くすることなどを求めた行動。

農村にも貨幣が入りこみ、綿花や菜種などの**商品作物**をつくって売る農家がふえた。18世紀には、問屋が農家に原料や道具を貸して製品をつくらせる**問屋制家内工業**が広がった。19世紀には、作業場に人を集めて分業で生産する**工場制手工業**も現れた。土地を集めて地主になる者と、土地を失って小作人になる者が現れ、貧富の差が広がった。

百姓は、年貢を軽くすることや不正をする役人をやめさせることなどを求め、村をこえて団結して**百姓一揆**を起こした。中心人物がわからないように、円形に名前を書いた**からかさ連判状**もつくられた。都市では、米の値段が上がると、貧しい人々が米を買い占めた商人の店などをおそ**う打ちこわし**を起こした。一揆や打ちこわしは、ききんで米が不足した年に特に多く、幕府や藩をおびやかした。

しくみ	生産のしかた
問屋制家内工業	問屋が原料・道具を貸し、農家が自分の家で製品をつくる
工場制手工業	作業場に働き手を集め、分業で製品をつくる(マニュファクチュア)

問いへの答え

8代将軍の徳川吉宗は享保の改革を行い、上げ米や新田開発で収入をふやし、公事方御定書で裁判の基準を定め、目安箱で民衆の意見を聞いて、幕府の財政を一時立て直した。一方、農村では商品作物の栽培や問屋制家内工業が広がって貧富の差が大きくなり、百姓一揆や都市の打ちこわしがふえていった。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

